

事務事業評価シート2(一般事業)

1 基本情報		事業番号	0145/252020/03/		事業の種類	4	
年度	19	事務事業名	認知症高齢者見守事業	作成日	平成21年1月20日	重要度	4
予算事業名		包括的支援事業・任意事業		担当部課名	健康福祉課		
政策名		すこやかに暮らせる、心かようまちづくり					
施策名		高齢者福祉	実施計画への記載	無	主要事業の指定	無	
根拠法規及び関連法規		介護保険法					
事業の目的	誰のために(具体的に)	65歳以上の在宅の徘徊高齢者等					
	誰(何)を対象として	徘徊高齢者等を介護する家族					
	意図(どのような状態にしたいのか)	徘徊高齢者等が徘徊した場合早期に発見できるように					

2 事業の概要 Do

実施の概要		徘徊高齢者が徘徊した場合、早期に発見できる位置検索システム専用端末の貸与を行なう。				
活動実績	項目	単位	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度計画
	利用者	人	—	—	0	5

3 投入資源		会計区分	介護保険特別会計			事業費単位:円			
インプット指標		17年度決算	18年度決算	前年比	19年度決算	前年比	20年度予算	前年比	備考
人員	課長以上職員	0.108	0.083	76.9	0.085	102.4	0.081	95.3	
	主幹以下職員			—	0.001	#####	0.001	100.0	
	臨時職員			—		—		—	
支出内訳	人件費	958,608	713,634	74.4	748,286	104.9	706,184	94.4	
	事業費			—	0	—	37,000	#####	
	合計	958,608	713,634	74.4	748,286	104.9	743,184	99.3	
財源内訳	国庫支出金			—		—	14,000	#####	40.5%
	県支出金			—		—	7,000	#####	20.25%
	市債			—		—		—	
	その他			—		—	7,000	#####	19%介護保険料
	一般財源		713,634		748,286	104.9	715,184	95.6	20.25%
	合計	0	713,634		748,286	104.9	743,184	99.3	

4 評価指標

【有効性】

指標名1		利用数の増減							
指標説明(式)		延べ利用者数の増減							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
食	目標			—	15	#####	5	33.3	
	実績			—	0	—			
指標名2		徘徊高齢者発見回数の増減							
指標説明(式)		徘徊高齢者発見回数の増減							
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
人	目標			—	1	#####	2	200.0	
	実績			—	0	—			

【効率性】

指標名1	利用者1人あたりの事業コスト								
指標説明(式)	総費用／利用者数								
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
円	実績			-	0	-	148,587	#####	

指標名2	徘徊高齢者1人発見あたりの事業コスト								
指標説明(式)	徘徊高齢者1人発見あたりの事業コスト								
指標単位	区分	17年度	18年度	前年比	19年度	前年比	20年度(計画)	前年比	備考
	実績			-	0	-	371,467	#####	

5 事業の評価(19年度実績) Check

評価視点	具体的な評価観点	評価コメント及び現状認識	1次評価(係長)	2次評価(課長)
妥当性	目的の妥当性	徘徊高齢者が徘徊した時、位置検索システムにより早期に発見できる点で妥当性は高い。	5	4
	市民ニーズ	徘徊高齢者を介護する家族にとって当システム利用する事の安心感が高く精神的な介護の負担を軽減できる点においてもニーズは高いと考えられる。		
有効性	市民サービス	徘徊した時、早期に発見が可能であり、また、委託事業者による高齢者の保護も可能であるため、サービス性は高い。	4	3
	期待する目標	自宅において、位置検索が可能であるため、他人に迷惑をかける事無く、家族間で問題の解決が可能となる。		
効率性	負担割合の適正化	月額使用料、検索時にかかる費用、予備バッテリー等の費用は利用者負担としており適正である。	3	3

6 課題として認識された点

評価視点	具体的な評価観点	内容
効率性	手段の最適性	徘徊高齢者を抱える家族にとっては、徘徊時の心配は大きなものであり、また外部の人間にも多大な迷惑をかけることとなるため、当制度は必要であると考え。今後はPR等の方法を検討する。

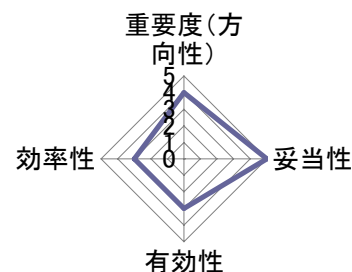
7 事業の改革改善 Action

(1) 評価結果を踏まえた20年度の改革改善内容

評価視点	具体的な評価観点	内容
効率性	手段の最適性	介護保険事業者、地域包括支援センター等と連携を密にし対象者への当制度のPRについて検討する。
H19→H20予算反映額		

(2) 20年度の実施方針

介護保険事業者、地域包括支援センター等と連携を密にし対象者への当制度のPRについて検討する。
--



検討の有無	—
総合指標	20